

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（技術）	学年	第1学年
----	-----------	----	------

【教科の目標：技術】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続的可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学 期	4	○ガイダンス	・3年間の学習内容や学習方法，授業のねらいなどを把握する。
	5	○ものづくりの技術	・身の回りのものがどのように作られ，工夫されているかを知る。
	6	○材料の特徴と加工方法	・材料の種類や特徴を学ぶ。
	7	○設計（製図）	・等角図をかく。
	8	○設計	・設計の進め方を学習し，構造を丈夫にする工夫を考える。
2 学 期	9	○部品加工（けがき）	・けがきに仕方を学び，さしがねを使い材料にけがきをする。
	10	○部品加工（切断）	・のこぎりの特徴を理解し，自分の作品の材料を切断する。
	11	○部品加工（部品調整）	・かんなの刃の調整や削り方，やすりがけの方法を学習し，自分の作品の部品を寸法通りに作成する。
	12	○組み立て	・きりやげんのうの使用法や特徴を学び，自分の作品の接合を行う。
		○組み立て（修正）	・さしがねを使い検査を行い，かんなやすりをを使い修正を行う。
	1	○情報の技術	・生活や社会，産業のさまざまな場面で情報の技術が使われていることを知る。
	2	○情報のデジタル化	・情報のデジタル化について知る。
3	○情報モラルとセキュリティ	・望ましい情報社会のための態度について考える。 ・情報セキュリティについて知る。	

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに，それらに係る技能を見に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解している。 ・定期テスト，ワーク，製作品など。	・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなどして課題を解決する力を見に付けている。 ・定期テスト，ワーク，レポート，発表，グループでの話し合いなど。	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，課題の解決に取り組んだり，振り返って改善したりして，技術を工夫し創造しようとしている。 ・準備物，提出物，授業中の取り組み態度，授業中の発言など。

【学習へのアドバイス】

(1) 学習前の準備

- ・教科書やワークなど，使用する準備物を忘れないようにしましょう。

(2) 授業では・・・

- ・道具の使い方や教室の使い方など様々な約束事をしっかりと守り安全に気をつけながら活動しましょう。
- ・基礎知識や技術を向上させましょう。(道具の管理をしっかりと行うこと。)
- ・ものつくることで，身の回りのものや道具に愛着を持つ心もちましょう。
- ・話し合い活動を通して，互いに教え合うことで，多くの知識や考え方，技術を向上させましょう。

(3) 家庭では・・・

- ・予習，復習をして理解を深めましょう。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（家庭）	学年	第1学年
----	-----------	----	------

【教科の目標】

- (1) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。
- (2) 家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1	4	家庭分野のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3学年間の学習内容の見通しをもつ。 ○各内容と家族・家庭の基本的な機能が関連していることに気づく。 ・ワークシートや話し合いによって、これまでの自分をふり返る。 ・自立と共生について考える。 ・教科書の目次・見取り図から中学校での学習内容をイメージする。
1	4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ①今の自分とこれまで ②わたしの生活と家族・家庭 ③家庭を支える社会 ④中学生にとっての家族 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長と家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ・教科書の例を参考に支えてくれた人を思い出す。 ○家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ・中学生のいる世帯の1日の生活時間のデータから、家庭の機能を支える家庭の仕事を誰が担っているかに気づき、自分ができていることを考える。 ○自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 ・小学校での学習を思い出し、家庭の働きと、それを支える活動について考える。 ○家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくできることを理解する。 ・ロールプレイングを通して、家族関係をよりよくする方法を考える。
1	7 8	<ul style="list-style-type: none"> ①衣服で伝わるメッセージ ②自分らしくコーディネート ③つなげよう和服の文化 ④上手な衣服の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ・TPOを設定し、ワークシートに適した衣服のデザイン画を記入する。 ○自分らしい着方を工夫することができる。 ・班ごとに自分の似合う色を見つける実験をする。 ○和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ・ゆかたの着装を通して、和服の特徴を知る。 ○自分の衣服計画が立てられる。 ○既製服を選ぶポイントがわかる。 ・手持ちの衣服で着ないものや着られなくなったものを点検する。 ・調べた衣服の表示とその意味を確認する。
1	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ①まかせて衣服の手入れ ②布の繊維に応じた手入れ ③めざそう洗濯名人 ④補修や収納・保管 	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ・しみ抜き体験など衣服の状態に応じた手入れの必要性を理解し、適切に手入れができる。 ○取扱表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ・洗濯で縮んだセーターを見て、なぜそうなったか考えるなど、衣服の素材や状態に応じた手入れができる。 ○衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ・洗剤のはたらきの動画を視聴するなど科学的な理解を深め、衣服の素材に応じた洗濯が適切にできる。 ○衣服の傷みの状況に合わせた方法で補修ができる。 ○衣服に合わせた方法でアイロンかけや収納・保管を適切に行うことができる。
2	10	布による作品で生活を演出 製作の基礎・基本	<ul style="list-style-type: none"> ○布を用いて生活を豊かにするものを考える。 ○製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。 ・生活を快適にしたり、資源や環境に配慮したりするなど、自分や家族、地域の人の生活を豊かにするための物を製作する。
2	11 12	生活の課題と実践	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ○実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ

	1		<p>次の実践につなげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、改善点や課題はないか生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 ・より豊かな生活になるような物を製作する。
2	1 2	持続可能な衣生活をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ○資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。 ・持続可能な衣生活を目標として、衣服計画を立て、衣服の活用や管理の方法を工夫する。
2	2	<p>①住まいのはたらき</p> <p>②住まいの空間</p> <p>①家庭内事故への備え</p> <p>②災害への備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○住まいの基本的な役割について理解する。 ○日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ・住まいの役割や基本的な機能について考え、各地の気候に合わせた住まいの特徴があることに気づく。 ○住まいの空間の使い方について理解する。 ○さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。 ・「生活にいかそう」にとりくみ、自分の考えをまとめる。 ○家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ○幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。 ・年齢別による家庭内事故の特徴を知り、安全に住むための対策を考える。 ○地域さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。
2	3	持続可能な住生活をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。 ・持続可能な住生活のために、課題を見つけ、改善方法を考える。

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について理解しているとともに、生活に必要な技能を身に付けているか。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して考えたことを表現する力を身に付けているか。	衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか。
【方法】 定期テスト・ワーク・制作物	【方法】 定期テスト・ワーク	【方法】 準備物・提出物・授業中の取り組み

【学習へのアドバイス】

- (1) 学習前の準備・・・教科書やワーク、必要に応じて裁縫道具やエプロン・三角巾など使用する準備物を忘れないようにしましょう。
- (2) 授業では・・・授業中は指示をよく聞いて活動に取り組むようにしましょう。特に実習中は裁ちばさみや包丁など集中しないと怪我につながることもあります。そういったものは指示を出されたとき以外は不必要に触らないようにし、必要時に正しい使い方ができるようにしましょう。話し合い活動では、進んで自分の意見を発表し合い、お互いの考えなどを共有しましょう。
- (3) 家庭では・・・家庭科は自分の生活に密に関わってくる教科です。授業で学習したことを家庭でも関連づけて取り組むようにしましょう。制作が遅れてきた場合は、許可を得た上で自宅制作等をして、遅れを取り戻しましょう。

↓

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（技術）	学年	第2学年
----	-----------	----	------

【教科の目標：技術】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続的可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学 期	4	○栽培の基礎	・育てる場所や環境を考え，栽培する作物を決める。
	5	○土づくり	・土の種類や肥料の与え方を学び自分が育成するための土づくりをする。
	6	○植えつけ	・種まき仕方，苗の植え方を学び自分が育成する作物を植える。
	7	○育苗について	・苗の育て方を学び自分が育成する作物を育てる。
	8	○日常の手入れ	・手入れの仕方を学び，観察日誌をコンピュータでまとめる。
2 学 期	9	○ソフトウェアの機能と情報処理	・文書処理ソフトを利用し文字色や大きさを工夫し栽培日誌を作成する。
	10	○発表作品作成	・図形処理ソフトを利用し，デジタルカメラから取り込んだ情報を使い，栽培日誌を作成する。 ・表計算ソフトを利用し，様々な関数の使い方学びながら，表やグラフを作成する。
	11	○1次エネルギーと2次エネルギー	・1次エネルギーと2次エネルギーの違いを学ぶ。
	12	○工作機器・電気機器の保守と安全	・簡単な電気回路のコードに流れる電流の研鑽を行い，電化製品の安全な使い方を学ぶ。 ・配電盤のしくみを学ぶ。
1 2	○製作	・手回し発電機を利用した製作を行う。 ・電子部品の特性を学ぶ。 ・製作物の部品点検を行う。	
	3	○これからのエネルギー変換の技術	・エネルギー変換の技術を活用して問題を解決する方法やエネルギーの有効利用や最適化などについて考える。

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を見に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 定期テスト、ワーク、製作品など。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を見に付けている。 定期テスト、ワーク、レポート、発表、グループでの話し合いなど。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。 準備物、提出物、授業中の取り組み態度、授業中の発言など。

【学習へのアドバイス】

(1) 学習前の準備

- 教科書やワークなど、使用する準備物を忘れないようにしましょう。

(2) 授業では・・・

- 道具の使い方や教室の使い方など様々な約束事をしっかりと守り安全に気をつけながら活動しましょう。
- 基礎知識や技術を向上させましょう。(道具の管理をしっかりと行うこと。)
- ものつくることで、身の回りのものや道具に愛着を持つ心もちましょう。
- 話し合い活動を通して、互いに教え合うことで、多くの知識や考え方、技術を向上させましょう。

(3) 家庭では・・・

- 予習、復習をして理解を深めましょう。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（家庭）	学年	第2学年
----	-----------	----	------

【教科の目標】

- (1) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。
- (2) 家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1	4	①食事の役割 ②健康によい食習慣	○食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。 ・「わたしの興味・関心」で自分の食生活をふり返りながら、食に関する考えを深める。 ○健康に良い食事について学び、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。
1	4 5	①中学生の発達と必要な栄養 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群	○中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ・食事摂取基準から中学生に多く必要な栄養素を見つけ出し、その理由を考える。 ○中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 ○1回の食事を目で見ても栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。 ・「生活にいかそう」にとりくみ、1回の食事の栄養バランスを判断できる。
1	5 6	食品が食卓にのぼるまで ①生鮮食品の選択と保存 ②加工食品の選択 ③食品の安全と情報	○生鮮食品の特徴がわかる。 ○目的に応じて生鮮食品を選択・保存できる。 ・生鮮食品の特徴と表示内容、保存方法を知る。 ○加工食品の特徴がわかる。 ○目的に応じて加工食品を選択できる。 ・加工食品の特徴と表示内容などを知る ○食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択できる。 ・食の安全を保っているしくみを知り、食品の情報を適切に判断して選択できる。
1	7 8	①調理の計画 ②おいしさと調理 ③肉・魚・野菜の調理	○調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ・調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。 ○おいしさと調理の関係や調理における衛生と安全を理解し実践できるようにする。 ・混合だしをつくるなどの体験を通して、おいしさと調理の関係を理解する。 ○肉・魚・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、それらを調理することができる。 ・肉・魚・野菜の調理上の性質を知る。 ・安全と衛生に気をつけて、肉・魚・野菜の調理をする。
1	9	地域の食文化	○地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。 ・地域や季節の食材について調べる。 ・だしを使った和食の実習を通して、郷土料理や行事食のよさについて気づく。
2	10	生活の課題と実践	○今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ○実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践につなげられる。 ・これまでの学習を振り返り、改善点や課題はないか生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 ・グループで発表し合い、計画を見直す。 ・各自で実践したことをまとめ、発表する。
2	11	1日分の献立 持続可能な食生活をめざして	○持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。 ・自分の「朝食」「昼食」の献立を立て、1日に必要な栄養を満たす「夕食」の献立を考えて、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える。 ○持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。 ・食品ロス、食料自給率など食生活のさまざまな問題を把握し、持続可能な食生活を送るためにできることを考える。

2	12	①消費生活のしくみ ②家庭生活における収入と支出	○物資とサービスの特徴がわかる。 ○消費生活のしくみがわかる。 ・「わたしの興味関心」で自分の生活をふり返りながら、消費生活・環境に関する考えを深める。 ・自分の生活を支えているものについてあげる。 ○収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。 ・優先順位を考え、自分にとっての計画的な金銭管理とは、どのようなことかを考え、とめる。
2	12 1	①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと ③いろいろな支払い方法 ④情報を活用した上手な購入	○店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。 ・店舗販売と無店舗販売（通信販売）の長所と短所について話し合い、発表する。 ○売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。 ・契約の意味やルールをワークシートにまとめる。 ○即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。 ・三者間取引の仕組みや、キャッシュレス化の影響について理解する。 ○生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。 ・商品を購入するときは、情報を集めること、価格だけではなく、品質、表示やマーク、環境などを検討し選択することを考える。
2	1 2	①なくならない消費者被害 ②消費者を支えるもの ③消費者の権利と責任	○消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。 ・教科書や地域の消費生活センターの資料から中学生に多いトラブルの内容を知り、自分の経験を発表する。 ○消費者を支えるしくみについて理解できる。 ・消費者を支える機関や法律の必要性を知る。 ○消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。 ・消費者の8つの権利と5つの責任を身近な事例等を通して理解する。
2	2 3	①消費行動が社会に与える影響 ②消費行動が環境に与える影響 ③世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造へ	○購入を通して消費者の行動が社会や環境に与える影響について理解する。 ・自分たちができるエシカル消費について考える。 ○環境に配慮したライフスタイルを選択し、実践できる。 ・環境を考えて家庭でも取り組めることを具体的に考える。 ○持続可能な生活にするために、自分たちができることを考える。 ・SDGsの特に12の目標においての自分の取り組み方について考える。 ・「生活にいかそう」にとりくみ、自分の考えをまとめる。

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について理解しているとともに、生活に必要な技能を身に付けているか。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して考えたことを表現する力を身に付けているか。	衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか。
【方法】 定期テスト・ワーク・制作物	【方法】 定期テスト・ワーク	【方法】 準備物・提出物・授業中の取り組み

【学習へのアドバイス】

- (1) 学習前の準備・・・教科書やワーク、必要に応じて裁縫道具やエプロン・三角巾など使用する準備物を忘れないようにしましょう。
- (2) 授業では・・・授業中は指示をよく聞いて活動に取り組むようにしましょう。特に実習中は裁ちばさみや包丁など集中しないと怪我につながることもあります。そういったものは指示を出されたとき以外は不必要に触らないようにし、必要時に正しい使い方ができるようにしましょう。話し合い活動では、進んで自分の意見を発表し合い、お互いの考えなどを共有しましょう。
- (3) 家庭では・・・家庭科は自分の生活に密に関わってくる教科です。授業で学習したことを家庭でも関連づけて取り組むようにしましょう。制作が遅れてきた場合は、許可を得た上で自宅制作等をして、遅れを取り戻しましょう。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（技術）	学年	第3学年
----	-----------	----	------

【教科の目標：技術】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続的可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1 学期	4	○コンピュータと情報処理	・情報を伝える仕組みを学ぶ。
	5	○デジタル化の方法	・デジタル化の仕組みについて学ぶ。
	6	○ネットワークと情報セキュリティ	・ネットワークの安全性と情報セキュリティについて学ぶ。
	7	○情報モラルと知的財産	・利用するときのモラルや知的財産について考える。
	8		・人権や個人情報の保護について考える。
2 学期	9	○プログラムによる計測・制御	・プログラムによる情報処の処理について知識を身につける。
	10		
	11	○プログラムによる計測・制御	・プログラムによる計測と制御を行う。
	12	○双方向性のあるコンテンツを利用した制御	・双方向性のあるコンテンツのプログラムの仕組みについて学ぶ。
	1	○双方向性のあるコンテンツを利用した制御	・双方向性のあるコンテンツでのプログラミングを学ぶことで，自分オリジナルのプログラムを作成する。
	2	○情報の技術と私たちの未来	・情報技術での学習をふり返り，技術の見方や考え方，管理・運営のあり方や新たな発想に基づく改良と応用について考える。

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに，それらに係る技能を見に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解している。</p> <p>・定期テスト，ワーク，製作品など。</p>	<p>・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなどして課題を解決する力を見に付けている。</p> <p>・定期テスト，ワーク，レポート，発表，グループでの話し合いなど。</p>	<p>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，課題の解決に取り組んだり，振り返って改善したりして，技術を工夫し創造しようとしている。</p> <p>・準備物，提出物，授業中の取り組み態度，授業中の発言など。</p>

【学習へのアドバイス】

(1) 学習前の準備

- ・教科書やワークなど，使用する準備物を忘れないようにしましょう。

(2) 授業では・・・

- ・コンピュータや教室の使い方など様々な約束事をしっかりと守り，ルールやマナーに気をつけながら活動しましょう。
- ・基礎知識や技術を向上させましょう。(道具の管理をしっかりと行うこと。)
- ・話し合い活動を通して，互いに教え合うことで，多くの知識や考え方，技術を向上させましょう。

(3) 家庭では・・・

- ・予習，復習をして理解を深めましょう。

令和5年度 年間計画・評価計画

教科	技術・家庭（家庭）	学年	第3学年
----	-----------	----	------

【教科の目標】

- (1) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。
- (2) 家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【年間指導計画】

学期	月	単元・題材	学習活動
1	4 5 6 7	①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④発達にとってのおとなの役割 ⑤遊びが必要なわけ ⑥遊びを支える環境	○幼児期への関心をもつ。 ・自分の幼児期をふり返り、幼い頃の夢やエピソードなどをまとめる。 ○幼児の身体の発育について、発達の方向性や順序性ととも、個人差があることを理解する。 ・幼児と今の自分の脈拍の違いについて知り、幼児の体の発達の特徴について考える。 ○幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。 ・家族に抵抗する幼児を想像し、幼児の心の発達の特徴について理解する。 ○子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。 ・幼児が基本的な生活習慣を身につけていく過程での家族や周囲のおとなの役割を考える。 ○自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ・幼いころに遊んだ経験を思い出し、幼児がいろいろな遊びで育つ力について考える。 ○幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。 ・幼児のために工夫された遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。
1 2	8 9 10 11	①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験に向けて ③ふれ合い体験 ④子どもの成長と地域	○幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 ・さまざまな幼児がいることを理解し幼児との接し方を考える。 ○幼児とのかかわり方について身につけた基礎的・基本的な知識を活用し工夫する。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し、考える。 ・幼児が楽しめるおもちゃを製作する。 ○幼児とのかかわり方について、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。 ・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。 ○子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で、中学生ができることを考える。
2	12 1	①家庭生活と地域での活動 ②多様な人びとが暮らす地域 ③地域に暮らす高齢者 ④高齢者とのかかわり	○家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。 ・地域の防災マップづくりなどを通して、家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることを理解し、自分ができることを考える。 ○地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。 ・ピクトグラムなど誰もが暮らしやすい地域づくりのための工夫を知り、理解する。 ○地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。 ・立ち上がりや歩行などの介助体験を通して、さまざまな高齢者がいることを理解する。 ○地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。
2	2	持続可能な家庭生活をめざして	○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題をみつけ、実践的に取り組む。 ・家族、地域、社会でのさまざまな問題を把握し、持続可能な社会に向けてできるこ

			とを考える。
2	3	3年間をふり返って	○3学年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気づく。 ・内容ごとにふり返らせ、これからの生活で生かしていきたいことを考える。

【評価の観点と方法】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について理解しているとともに、生活に必要な技能を身に付けているか。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して考えたことを表現する力を身に付けているか。	衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか。
【方法】 定期テスト・ワーク・制作物	【方法】 定期テスト・ワーク	【方法】 準備物・提出物・授業中の取り組み

【学習へのアドバイス】

- (1) 学習前の準備・・・教科書やワーク、必要に応じて裁縫道具やエプロン・三角巾など使用する準備物を忘れないようにしましょう。
- (2) 授業では・・・授業中は指示をよく聞いて活動に取り組むようにしましょう。特に実習中は裁ちばさみや包丁など集中しないと怪我につながることもあります。そういったものは指示を出されたとき以外は不必要に触らないようにし、必要時に正しい使い方ができるようにしましょう。話し合い活動では、進んで自分の意見を発表し合い、お互いの考えなどを共有しましょう。
- (3) 家庭では・・・家庭科は自分の生活に密に関わってくる教科です。授業で学習したことを家庭でも関連づけて取り組むようにしましょう。制作が遅れてきた場合は、許可を得た上で自宅制作等をして、遅れを取り戻しましょう。